

命を守る情報の 「格差解消」訴え

諏訪地区人権研修会 今村^ささん講演

東日本大震災で被災した耳が不自由な人たちのドキュメンタリー映画「架け橋 きこえなかつた3・11」を制作した今村彩子さん(36)〔名古屋市中区〕が10日、諏訪市文化センターで開いた諏訪地区人権研修会で講演した。津波警報や避難情報を得られなかった多くのろう者が被災地にいたと伝え、「命を守る情報に格差があつてはいけない」と訴えた。

(鮎沢健吾)

映像作家として活躍する今村さんが、送りが聞こえずに命を落としかつた村さん自身もろう者。発災から11日後に宮城県入りし、津波で家を失うなどしたろう者・難聴者を励ましながら、現状を知らせたいと2年4カ月かけて取材した。津波警報の放

の助け合いに向け、手話の普

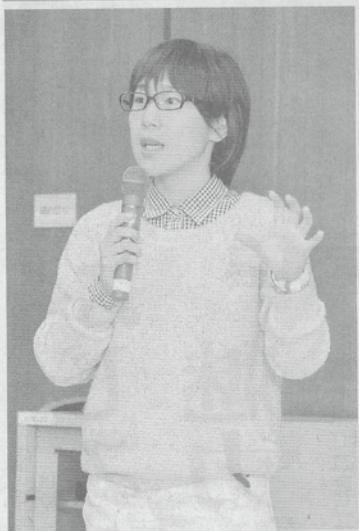
及や手話を通じた交流の推進を目指す男性の姿も追った。

上映後に講演した今村さんは「情報に格差があつてはいけない」というのが映画のテ

「マ」とした上で、是正していくには「自分たちの積極性も必要」と話した。

「私自身コミュニケーションは苦手。でも、人とのつながりが方が一の際に大事になる。苦手だからといって逃げてはいけない」とし、映画制作のために自転車で日本を縦断するプロジェクトでは「山が多い長野県は残念ながら通過しませんでした。道を尋ねたりと、地元の人たちと積極的に会話をした」とにこやかな表情で語った。

県諏訪地方事務所と諏訪公共職業安定所が主催する「4〜10日」の一環で開き、約120人が聞き入った。



ドキュメンタリー映画「架け橋 きこえなかつた3・11」について語る今村彩子さん